



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月1日

上場会社名 株式会社あじかん

上場取引所 東

コード番号 2907 URL <https://www.ahjikan.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 足利 直純

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経営管理本部長 兼 経営管理部長 (氏名) 澄田 千稔 TEL 082-277-7010

四半期報告書提出予定日 2022年2月8日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	33,899	6.1	407	18.9	607	68.3	390	72.9
2021年3月期第3四半期	31,961	△6.0	342	△21.8	360	△29.7	225	△38.1

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 500百万円 (104.0%) 2021年3月期第3四半期 245百万円 (4.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	51.29	-
2021年3月期第3四半期	29.65	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	27,268	13,557	49.7	1,781.32
2021年3月期	23,745	13,228	55.7	1,738.04

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 13,557百万円 2021年3月期 13,228百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	0.00	-	15.00	15.00
2022年3月期	-	0.00	-		
2022年3月期 (予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	5.7	430	△31.9	650	△22.3	450	△25.0	59.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有
連結業績予想の修正については、本日 (2022年2月1日) 公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）AHJIKAN FOODS, INC.、除外 1社（社名）－
（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	7,700,000株	2021年3月期	7,700,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	89,053株	2021年3月期	89,053株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	7,610,947株	2021年3月期3Q	7,610,947株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞が継続した結果、前連結会計年度において急速に悪化した個人消費や企業収益は依然として回復しておらず、厳しい状況で推移いたしました。加えて、国外におきましては、新型コロナウイルスの変異株発生による感染再拡大や、中国大手不動産企業のデフォルト問題、米国の金利政策により金融資本市場が不安定な動きとなるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、消費者の購買行動が大きく変化していることに加え、長引く景気後退によって個人消費は足踏み状態となっており、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、『需要創造型食品メーカーへの挑戦』および『利益構造改革と経営品質の向上』をテーマとした第12次中期経営計画の初年度をスタートさせ、第一に「利益構造改善への取り組み」、第二に「業務用食品事業の売上拡大」、第三に「ヘルスフード事業・海外事業の拡大および新規事業構想の立案」、第四に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、33,899百万円（前年同四半期比6.1%増加）となり、前年同四半期実績を上回ることができました。一方、利益面につきましては、当社主要原材料である鶏卵の仕入価格が鳥インフルエンザの影響から大幅に上昇したほか、原油高騰によって原材料価格が軒並み上昇しましたが、売上高の拡大効果に加え、徹底的な諸経費抑制に努めた結果、営業利益は407百万円（前年同四半期比18.9%増加）となりました。経常利益は、為替差益やデリバティブの時価評価益、持分法による投資利益などにより607百万円（前年同四半期比68.3%増加）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は390百万円（前年同四半期比72.9%増加）となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

①業務用食品等

販売面につきましては、新型コロナウイルス感染症による影響が継続する厳しい経営環境の中、スーパーマーケットを中心とした中食業態や、回転ずしチェーンを中心とした外食業態への可能な限りの提案・販売促進活動を展開してまいりました。前年同四半期に大幅に減少していた外食・仕出し・給食業態の需要も回復基調にあり、繁忙期である年末の売上が大きく伸張したことも奏功し、国内の売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。また、輸出・海外子会社の売上高につきましても、ロックダウンの影響が軽減されたことに伴い、大きく回復いたしました。

生産面につきましては、省エネ活動や、生産技術力の向上による歩留まり率の改善などの原価低減活動を行ったものの、当社の主要原材料である鶏卵の仕入価格が鳥インフルエンザの発生によって大きく上昇したほか、原油価格高騰に伴う諸経費の増加などにより、製造原価率は前年同四半期に比べ大幅に上昇いたしました。

販売費につきましては、売上高の増加に伴い変動費が増加したものの、経費執行の抑制などにより、前年同四半期に比べ大幅に減少いたしました。

これらの結果、外部顧客への売上高は30,521百万円（前年同四半期比8.2%増加）となりましたが、セグメント利益（営業利益）は991百万円（前年同四半期比22.8%減少）にとどまりました。

なお、北米での販路拡大に向け、2021年7月6日付でアメリカ合衆国ロサンゼルスに販売拠点となる連結子会社 AHJIKAN FOODS, INC. を設立しております。

②ヘルスフード

通信販売は、東京オリンピック・パラリンピック期間中のテレビCM抑制により、新規顧客の獲得が減少したことや、収益認識に関する会計基準の適用もあり、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。一方、ドラッグストアなどでの市販品につきましては、新規開拓やインスタプロモーションの強化を行った結果、機能性表示食品のごぼう茶の売れ行きは好調に推移いたしました。しかしながら、コロナ禍の影響などにより前年同四半期に大きく伸張した健康茶市場が一服したこともあり、売上高は前年同四半期実績を下回る結果となりました。

販売費につきましては、Web会議・Web商談の積極的な活用による出張旅費の抑制や、広告宣伝費をはじめとした諸経費の低減に努めてまいりました。

これらの結果、外部顧客への売上高は2,964百万円（前年同四半期比10.6%減少）にとどまりましたが、セグメント利益（営業利益）は579百万円（前年同四半期比45.6%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,522百万円増加し27,268百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3,764百万円増加し14,519百万円となりました。主な増減要因は、受取手形及び売掛金の増加2,640百万円、原材料及び貯蔵品の増加605百万円、商品及び製品の増加485百万円、その他に含まれる未収入金の減少65百万円、現金及び預金の減少37百万円などです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ241百万円減少し12,748百万円となりました。これは、無形固定資産においてソフトウェアが増加したものの、減価償却の進行に伴い有形固定資産が減少したことや、投資その他の資産においてその他に含まれる保険積立金や投資有価証券が減少したためです。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ3,192百万円増加し13,710百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ3,619百万円増加し12,564百万円となりました。主な増減要因は、短期借入金の増加2,406百万円、支払手形及び買掛金の増加1,486百万円、賞与引当金の減少231百万円などです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ426百万円減少し1,145百万円となりました。主な増減要因は、リース債務の増加65百万円、長期借入金の減少457百万円、長期未払金の減少33百万円などです。

なお、当第3四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ1,948百万円増加し6,927百万円となっております。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ329百万円増加し13,557百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上390百万円、為替換算調整勘定の増加138百万円、剰余金の配当による減少114百万円、その他有価証券評価差額金の減少26百万円などです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ6.0ポイント減少し49.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、修正しております。

詳細につきましては、本日(2022年2月1日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,843,258	1,805,632
受取手形及び売掛金	5,031,986	7,672,943
商品及び製品	2,296,898	2,782,282
仕掛品	34,961	41,717
原材料及び貯蔵品	1,106,495	1,711,941
その他	457,048	524,572
貸倒引当金	△15,214	△19,552
流動資産合計	10,755,435	14,519,536
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,921,039	3,811,924
機械装置及び運搬具(純額)	2,194,321	1,940,695
土地	3,804,917	3,806,432
リース資産(純額)	221,193	312,918
その他(純額)	502,413	482,230
有形固定資産合計	10,643,885	10,354,202
無形固定資産		
ソフトウェア	358,104	534,537
リース資産	60,809	52,913
のれん	49,364	37,023
その他	2,784	3,046
無形固定資産合計	471,063	627,521
投資その他の資産		
投資有価証券	687,613	609,897
長期前払費用	718	1,256
繰延税金資産	82,229	12,724
退職給付に係る資産	282,689	323,677
その他	899,278	895,023
貸倒引当金	△77,198	△75,800
投資その他の資産合計	1,875,333	1,766,778
固定資産合計	12,990,281	12,748,502
資産合計	23,745,717	27,268,038

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,755,013	4,241,695
短期借入金	3,838,253	6,244,419
リース債務	97,041	124,339
未払法人税等	221,751	19,461
賞与引当金	352,000	120,990
役員賞与引当金	42,496	40,039
ポイント引当金	62,550	32,859
契約負債	—	134,737
その他	1,576,145	1,606,212
流動負債合計	8,945,251	12,564,753
固定負債		
長期借入金	1,141,052	683,100
長期末払金	130,254	96,531
リース債務	215,669	281,452
資産除去債務	53,861	54,006
退職給付に係る負債	14,326	16,126
繰延税金負債	15,680	13,050
その他	1,500	1,500
固定負債合計	1,572,343	1,145,767
負債合計	10,517,594	13,710,521
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102,250	1,102,250
資本剰余金	1,098,990	1,098,990
利益剰余金	10,793,105	11,012,105
自己株式	△64,426	△64,426
株主資本合計	12,929,919	13,148,919
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	145,252	118,582
繰延ヘッジ損益	12,769	11,215
為替換算調整勘定	140,181	278,798
その他の包括利益累計額合計	298,203	408,597
純資産合計	13,228,122	13,557,517
負債純資産合計	23,745,717	27,268,038

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	31,961,670	33,899,359
売上原価	23,399,302	25,663,909
売上総利益	8,562,368	8,235,450
販売費及び一般管理費	8,219,491	7,827,663
営業利益	342,877	407,786
営業外収益		
受取利息	7,042	1,536
受取配当金	18,910	16,569
持分法による投資利益	36,394	34,399
長期為替予約評価益	—	42,864
保険返戻金	—	26,580
為替差益	14,391	62,090
補助金収入	32,738	29,220
その他	38,453	23,446
営業外収益合計	147,930	236,707
営業外費用		
支払利息	25,744	22,871
長期為替予約評価損	89,376	—
その他	14,843	14,314
営業外費用合計	129,964	37,185
経常利益	360,843	607,308
特別利益		
固定資産売却益	12,083	6,619
投資有価証券売却益	23,337	34,731
特別利益合計	35,421	41,351
特別損失		
固定資産除却損	4,345	1,325
投資有価証券売却損	—	24
投資有価証券評価損	—	15,038
特別損失合計	4,345	16,388
税金等調整前四半期純利益	391,919	632,270
法人税、住民税及び事業税	120,077	138,733
法人税等調整額	46,143	103,202
法人税等合計	166,221	241,936
四半期純利益	225,697	390,334
親会社株主に帰属する四半期純利益	225,697	390,334

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	225,697	390,334
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40,693	△26,669
繰延ヘッジ損益	△10,137	△1,553
為替換算調整勘定	△7,460	107,545
持分法適用会社に対する持分相当額	△3,306	31,071
その他の包括利益合計	19,788	110,394
四半期包括利益	245,486	500,728
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	245,486	500,728
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第2四半期連結会計期間において、新規設立によりAHJIKAN FOODS, INC. を連結の範囲に含めております。

なお、AHJIKAN FOODS, INC. は当社の特定子会社に該当しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、ヘルスフードにおいて販売費及び一般管理費として計上していたポイント引当金繰入額の一部について、売上高から控除しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,148千円減少し、販売費及び一般管理費は1,093千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ18,055千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は57,169千円減少しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	28,210,424	3,316,687	31,527,112	434,558	31,961,670	—	31,961,670
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	368,619	368,619	△368,619	—
計	28,210,424	3,316,687	31,527,112	803,178	32,330,290	△368,619	31,961,670
セグメント利益又は損失 (△)	1,284,551	398,193	1,682,745	△19,860	1,662,884	△1,320,006	342,877

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,320,006千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,307,759千円及び棚卸資産の調整額△12,247千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	30,521,727	2,964,305	33,486,032	413,326	33,899,359	—	33,899,359
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	398,342	398,342	△398,342	—
計	30,521,727	2,964,305	33,486,032	811,669	34,297,702	△398,342	33,899,359
セグメント利益	991,685	579,619	1,571,305	1,387	1,572,692	△1,164,906	407,786

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,164,906千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,172,534千円及び棚卸資産の調整額7,628千円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「ヘルスフード」の売上高は19,148千円減少し、セグメント利益は18,055千円減少しております。